

0770 | レタリング

2 単位 (通信授業 2 単位)

白尾隆太郎教授、木村文敏講師

授業の概要と目標

情報化社会におけるコミュニケーションは、さまざまな媒体による幅広い展開がみられるが、その基本的なツールとして文字があげられる。文字によって人類の英知は記録され文明は発展してきた。この文明の発祥とともにそれを支えてきた文字は、今日の情報化社会においてもコミュニケーションの基本的なツールの意味は変わらない。デザインの観点からみれば、マス・コミュニケーションを可能にした印刷による文字、ひいてはその組版(タイポグラフィ)として文字が常に大きな関心事であった。時代は印刷文字のもつ訴求力やイメージや可読性を要求したが、コンピュータのディスプレイに表示される文字が馴染み深い文字になりつつある今日においても、そこに求められる要件に変わりはない。したがって、文字のデザインについて深い見識を得ることはデザインに関わる上での必須の技能といえる。

この科目はそのような意味から、デザイン全般の主要な基礎学習として位置付けられる課題が設定されている。日本で使用されている文字は、いうまでもなく漢字と平仮名・片仮名であるが、ローマン・アルファベットも多用されている。ここでは、印刷やディスプレイ上の基本とされるそれぞれの代表的な書体を書くことによって文字造形の原理を学びたい。また、汎用される書体(フォント)とは異なり、個性的でイメージの差異が求められるロゴタイプなど、広く文字デザインの世界の一端に触れることを意図した課題を出題している。

課題の概要

○通信授業課題 1

和文・欧文・ロゴタイプのレタリング

- 1-1. 自分の姓名を和文の基本的印刷書体である明朝体とゴシック体で書く。
- 1-2. 自分の姓名を欧文の基本的印刷書体であるローマン体とサンセリフで書く。
- 1-3. 自分の名前のロゴタイプを制作する。

○通信授業課題 2

和文と欧文のスペーシングの実習。

*課題については学習指導書『レタリング 平成 29 年度』を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

1. 課題 1 (和文・欧文・ロゴタイプのレタリング) を、示された書体サンプルなどを参考にし、まず下書きを行う。3 点とも下書きの段階で提出し、指導を受ける。(1 次提出)
2. 返却された課題 1 の下書きの指導をもとに、課題 1 の作品を完成させる。
3. 課題 2 (スペーシング実習) を行う。
4. 完成した課題 1・課題 2、および指導を受けた課題 1 の下書きを提出する。(2 次提出)

成績評価の方法

1 次提出は課題 1 の下書きのチェックのみとし評価は行わず、2 次提出(仕上げた作品とチェックされた下書き)で総合的に評価する。科目の評価はすべての作品の評価の平均とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

教材等

教科書：後藤吉郎、小宮山博史、山口信博ほか『レタリング・タイポグラフィ』
(武蔵野美術大学出版局 2002 年)

学習指導書：『レタリング 平成 29 年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017 年)

DVD 教材：『レタリング』